

編集にあたって 姜尚中

巻頭言 小松久男

凡例

第1章

東・西アジアを結ぶ
広域なモンゴル帝国の出現

宇野伸浩

はじめに

チンギス・カン(？～一二三七)

006 003

- 一、チンギス・カンが登場した頃のモンゴル高原の遊牧世界
- 二、テムジンの誕生と父イエスゲイ・バートルの死去
- 三、テムジンと弟ジョチ・カサル
- 四、テムジンの苦難の時代
- 五、「二三クリエンの戦い」とテムジンの評判

- 六、テムジンのトオリル・カンへの臣従
- 七、テムジンとタタル部族との戦い
- 八、トオリル・カンのケレイト王位への復帰とテムジン
- 九、テムジンとトオリル・カンの軍事行動
- 一〇、反テムジントオリル・カン連合の結成
- 一一、テムジンとトオリル・カンの不和とケレイト王国の滅亡
- 一二、ナイマン王国の征服とモンゴル帝国の誕生
- 一三、母ホエルンの再婚とテブ・テンゲリの殺害
- 一四、対外遠征の開始
- 一五、長男ジョチの死去
- 一六、チンギス・カン崩御

イエスゲイ・バートル(生没年不詳)

オゴデイ・カアン(一一八六～一二四二)

モンケ・カアン(一二〇九～五九)

その他の人物

076 067 057 053

テムゲ・オッチギン／チャガダイ／シギ・クトウク／
グユク／ソルカクタニ・ベキ

チンギス・カンをめざした
「賢き皇帝（セチェン・カアン）」

松田孝一

はじめに

081

第一部 帝王の生涯

クビライ・カアン（一二二五～九四）

084

- 一、帝国最大の軍閥トルイの次男クビライ クビライの王家の形成／新領地への南遷
- 二、クビライの初陣 大理国遠征出発と京兆の新領地／チベット縦断と大理国首都制圧／曹彬不殺の精神
- 三、モンケ・カアンとの不和と和解後の新任務 クビライの不正と軍事指揮権剝奪／新任務（二）全真教排除／新任務（二）南宋鄂州への出陣
- 四、アリク・ボコとの抗争 南北朝の出現／アリク・ボコの投降と帝国の四分割／李璫の乱
- 五、クビライ・カアンの領域再編 ケシクテンの整備／燕京行省の吸収／祖先廟と首都と宮殿の建設／朝儀の創作／新国号、大元の採用／クビライの諸子封建
- 六、クビライの覇権の拡大 バヤンの南宋征服／反クビライ王族との闘い／高麗国王のモンゴル同化／日本遠征／南海諸国への招諭と遠征／クビライのめざしたもの

第二部 クビライ・カアンを支えた人々
侍衛親軍／新附軍／キプチャク親軍衛

142

廉希憲（一二三二～八〇）

144

劉秉忠（一二二六～七四）／許衡（一二〇九～八二）／王鶚（一一九〇～一二七三）

ハクバ（一二二五～八〇）

アフマド（？～一二八二）

マルコ・ポーロ（一二五四～一三三四）

その他の人物

史天沢／サキヤ・パンデイタ／北条時宗／サンガ

162

モンゴル時代の西アジア
——イル・ハン国とラシードウツデイン

大塚修

はじめに

177

ラシードウツデイン（一二四九～一三二八）

180

- 一、謎に包まれた出自——ラシード家とイル・ハン国 生まれ年／ニザール派政権からイル・ハン国へ
- 二、フレグ（一二二七～六五）——ラシードを取り巻く人物① 少年時代のクビライとフレグ／

西アジア遠征／初めての大敗北／イル・ハン国の建国とベルシア系行政官僚たち
三、ナスールッディーン・トウースイー（一二〇一～七四）——ラシードを取り巻く人物② 政
権の別をこえ學術活動の中心を担い続けた大学者／トウースイー家と天文台の最期
四、出世への足掛かり——イル・ハン国における君主と典医の関係
五、アバカ（一二三四～八二）——ラシードを取り巻く人物③ イル・ハン国最初の王位継承／
四面楚歌のアバカ／イル・ハン国と宗教
六、ジュワイニー兄弟——ラシードを取り巻く人物④ 西アジア史に刻まれたジュワイニー家の
足跡／イル・ハン国史に刻まれたジュワイニー兄弟の足跡／學術活動の庇護者として／宰相を務
めた者の末路
七、ガザン（一二七一～一三〇四）——ラシードを取り巻く人物⑤ 少年時代／改宗と即位／遠
征と諸改革
八、オルジェイトウ（一二八二～一三二六）——ラシードを取り巻く人物⑥ 少年時代／イル・ハ
ン国の最盛期／シリア派改宗／建設事業とスルターニーヤ
九、宰相として アバカ家との深い絆／権力闘争のなかのラシードウッディーン／政敵アリ
シャー
一〇、學術活動の庇護者として 建設事業とラシード区／『ワツサーフ史』／『集史』編纂／神学
著作その他の編纂
一一、権力闘争のはてに 「もう一人」のラシードウッディーン／名宰相の最期
一二、タージュッディーン・アリーシャー（？～一三三四）——ラシードを取り巻く人物⑦ 異例
の出世／自然死した唯一人のイル・ハン国宰相
一三、ギヤースッディーン・ムハンマド・ラシードイー（？～一三三六）——ラシードを取り巻く
人物⑧ ラシード家の復権と長期政権／ラシードウッディーン像の創造

その他の人物
キト・ブカ／ボラド丞相／フルシャー／ムスタアスィム／

233

第4章

中国史上最初の大劇作家

金文京

はじめに

245

関漢卿

（一二三〇頃～一三三四以前）

250

- 一、関漢卿の作品 歴史劇／恋愛、世話物劇／裁判劇
- 二、関漢卿の経歴——医者一族の道楽息子？
- 三、金元代の医学の発達と普及、医者への地位向上
- 四、関漢卿の作品中の医学表現
- 五、近世の中間階層による中間的文学
- 六、余論——日本近世における医学と文学

白仁甫（一二二六～一三〇六以後一三三四以前）

273

馬致遠（？～一三三二以後一三三四以前）

287

その他の人物

293

鍾嗣成／周德清／朱權／夏庭芝／鄭德輝／高文秀／楊維禎／賈仲明／劉完素／張從正／張元素／李杲／朱震亨／元好問／史天沢／王実甫／桑哥／羅貫中

第5章

道教の変貌と社会への浸透

横手 裕

——金元時代の全真教とその周縁

はじめに

303

王重陽（一一二〇～一七〇）

306

苦惱の五〇年／山東の伝教／開封の仙去、およびその後／本来の真性／養気全神／功行両全／宿世の功行・三教帰一・酒色財氣／教説の継承と変容

丘長春（一一四八～一二二七）

319

前半生の苛酷な修道／後半生の名望と西遊／『玄風慶会録』／その後の継承と発展／丘祖龍門派と北京白雲觀

馬丹陽（一二二三～八三）

330

尹志平（一一六九～一二五一）

334

張伯端（九八七～一〇八二）

337

白玉蟾（一一九四？～一二二九？）

340

張留孫（一二四八～一三二一）

344

その他の人物

347

呂洞賓／王処一／譚処端／劉処玄／郝大通／孫不二／趙道堅／宋徳方／李志常／蕭抱珍／劉徳仁／張可大／張宗演／耶律楚材／万松行秀／雪庭福裕／如意祥邁／元好問／王惲／呉澄／虞集／趙孟頫／黄公望／倪瓚／李道純／苗善時／陳致虚／何道全

第6章

武家政権の開創と仏教

大隅和雄

はじめに

359

北条泰時（一一八三～一二四二）

362

内乱の子／承久の乱／乱の戦後処理／幕政の刷新／御成敗式目の制定／都市鎌倉の整備／幕府最盛期の執権／上洛と逝去

北条政子（二五七～二三五）
後鳥羽院（一八〇～一二三九）
北条時頼（一二二七～六三）
法然（一二三三～一二二二）

その他の人物

北条義時／北条時宗／親鸞／一遍／日蓮／明恵／重源／
荣西／道元／蘭溪道隆／無学祖元／一山一寧

389 384 382 379 375

第7章

宋元文化の奔流に向き合った日本僧

榎本 涉

はじめに

403

夢窓疎石（二七五～一三五）

404

- 一、夢窓の若年時代 夢窓の出家／一山一寧と高峰顕日
- 二、有力者の崇敬 大刹での住持／建武新政と禅宗政策／禅宗への批判
- 三、夢窓と室町幕府 室町幕府との関わり／天龍寺の創建と日元貿易／夢窓の最期／夢窓の後

後醍醐天皇（二八八～一三三九）
清拙正澄（二七四～一三三九）
足利直義（一三〇六～五二）

その他の人物

覚海尼／梶原性全／中巖円月／大友貞宗／春屋妙葩

426 423 421 417

第8章

モンゴル服属期の高麗

森平雅彦

はじめに

431

忠烈王（一二三六～一三〇八）

433

- 一、忠節なる国王？
- 二、太子となるまで——危機の時代の申し子
- 三、太子時代——対モンゴル関係の転換
- 四、在位前半期——王朝存続にむけての地歩固め
- 五、在位後半期——権力をめぐる葛藤

忠宣王	(二七五～三二五)	470
洪茶丘	(二四四～九二)	478
趙仁規	(二三七～三〇八)	481
李齊賢	(二八七～三六七)	486
その他の人物		491
クビライ(フビライ)／北条時宗／チンギス・カン／ 金方慶／忠肅王／忠恵王／恭愍王／奇氏(奇皇后)		

第9章

南アジアのイスラーム化とスーフィー

二宮文子

はじめに

499

ニザームッディーン・アウリヤー

503

- 一、南アジアのスーフィズム史の中でのニザームッディーン・アウリヤー
- 二、サルタナト支配層との関係
- 三、教団指導者としてのニザームッディーン
- 四、語録と伝記によるイメージ形成

五、デリーのモニュメントとしてのニザームッディーン・アウリヤー廟	529
六、インド・イスラームとスーフィー	531
ムイーヌッディーン・スイジュジー	533
バハーウッディーン・ザカリヤー	538
イルトウトウミシユ	540
アラールウッディーン・ムハンマド・シャー・ハルジー	535
サーラール・マスウード	538
ジャラールッディーン・フサイン・ブハーリー	540

その他の人物	543
ガズナのマフムード／ムイツズッディーン・ムハンマド・ブン・サムム／ プリトウヴァイーラージャ三世／クトゥブッディーン・アイベグ／ ジャヤチャンドラ／ナスイルッディーン・クバーチャ／ラズイーヤ／ ギヤースッディーン・バラバン／ムハンマド・シャー・ブン・トゥグルク／ フジュウイーリー／クトゥブッディーン・バフティヤール／ フアリードッディーン・マスウード／ジャラールッディーン・タブリーズイー／ アミール・ホスロー／ルクヌッディーン・アブルファトフ／ ズイヤーウッディーン・バラニー／ナスイルッディーン・マフムード・アワディー／ マリク・カーフル／ラーマデーヴァ／プラターパルドラ二世／バッラーラ三世／ ハリハラ／ブッカ／アラールウッディーン・ハサン・バフマン・シャー／ フィールーズ・シャー・バフマニー／サドルッディーン・ムハンマド・フサイニー	

モンゴル時代の東南アジア

青山 亨
上田新也
伊東利勝
川口洋史

はじめに

559

クルタラージャサ(？～一三〇九)

563

ガジヤマダ(？～一三六四)

567

王国の対外拡張政策を担った宰相／「バラバの誓い」の実現／ガジヤマダの死とその後／民族英雄となったガジヤマダ

陳興道(一二二八～一三〇〇)

573

その他の人物

576

クビライイ・カアン／ナラティーハパテ／シヤン三兄弟

ラージャサ・ナガラ／タントウラル／マルコ・ポーロ

イブン・バットウータ／周達観／ラームカムヘーン

大旅行家イブン・バットウータ

家島彦一

はじめに

585

イブン・バットウータ(一二三〇四～六八／九)

586

イブン・バットウータの家族と家系／旅の目的／マムルーク朝のスルタンハナースィル・ムハンマド治世下のカイロ／シリア巡礼道を通してメディナ経由でメッカへ／アラビア半島を縦断して、イラク～イランへの旅／紅海からアデンを経て東アフリカ海岸への旅／ユーラシア大陸の内陸部を縦断し、インドに至る旅／インドを離れて、中国への旅／モロッコへの帰郷の途につく／帰国の決意のもと地中海を渡る旅人／サハラ砂漠を越えてマリ王国へ最後の旅行／晩年のイブン・バットウータと編纂者イブン・ジュザイイ

イスラーム思想文化のきらめき

東長 靖
原 陸郎

はじめに

645

イブン・アラビィ (二二六五～二四〇〇)

西から東へ／東方での日々／イブン・アラビィの神秘思想／今も生き続けるイブン・アラビィの影響

650

イブン・タイミーヤ (二二六三～一三二八)

前近代の傍流、近現代の主流／前途有望な学者／モンゴルに対して立ち上がる／論争家イブン・タイミーヤ／重用と迫害／「ハディースの徒」としての矜持／イブン・タイミーヤとスーフイズム／サラフィー主義とイブン・タイミーヤ

663

ルーミー (二〇七七～七三)

イブン・ハルドゥーン (一三三三～一四〇六)

682 676

その他の人物

688

バイダーウイー／アブー・バラカート・ナサフィー／イブン・カスィール／
イブン・カイム・ジャウズィーヤ／タキーユッディーン・スブキー／
モッラー・ファナーリー／ファフルッディーン・ラーズィー／イージー／
タフターザーニー／ジュルジャーニー／ナジユムッディーン・クブラー／
シハーブッディーン・スフラワルディー／シャーズィリー／
アフマド・バダウイー／アズィーズ・ナサフィー／ダーウード・カイサリー／
バハーウッディーン・ナクシュバンズ／イブン・アッバード・ロンディー／
ジャーミー／クトゥブッディーン・ラーズィー／イブン・アビー・ウサイビア／
アッラーマ・ヒッリー／ハイダル・アームリー／イブン・ファアリド／

ブースイーリー／ユヌス・エムレ／ナヴァーイー／ハーフィズ／
イブン・ハツリカーン／マクラーズィー／イブン・ハジャール・アスカラーニー

執筆者一覧

写真提供・図版出典